番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-1	国語総合	1	S・A・P	5	必修

何を学ぶか

■高校で学ぶ国語の基本を学習します。
・現代文と古典(古文と漢文)の二分野からなりますが、特に古典の比重が高くなります。どちらの分野も、速く正確に読解し、言葉の力を増やす学習をします。
・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をする学習活動も行います。

学習目標

・各種の優れた現代の文章について、速く正しく読解する力を身につけるとともに、日本語の特質について学習し、言葉の力を高め、様々な考え方や生き方を知り、広く深い視野を育てる。
・伝統的な言語文化である古文や漢文に親しみ、それを自力で現代語訳できる力と、内容を正確に読み取る力を身につける。また、先人の考え方や生き方を知り、視野を広める。
・話し合いや書くことを通じて思考力を伸ばし、的確な理解力と適切な表現力、伝達力を高める。

学習方法

■現代文・古典(古文・漢文)のどちらも必ず予習をしてくること。授業はそれを前提として進める。
① 現代文：予習では、本文を音読し、漢字や語句の読み方・意味などを調べておく。授業では予習内容を確認し、読解のポイントを理解する。特に「板書をノートに写すだけでは勉強と言えない」ことに注意。授業で学んだことが他の文章でも使えるように心がけて取り組む。
② 古典(古文＋漢文)：予習では原文を音読しノートへ転写する。また単語や文法を調べておく。授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や漢文句法などを確実に覚える。
★古典文法は高校の国語学習の基本なので年間を通じて取り組み、確実に暗記する。
③ 相手の立場や考えを尊重して話し合い、適切な表現を考えて書いたり、発表したりする。

評価方法

・定期考査は1・2学期の中間と、各学期末に実施し、漢字等の小テストを週ごとに実施する。
・考査点（定期考査・課題テスト）と平常点（提出物・小テスト・※授業参加など）とを7：3の割合で評価する。※は語句の意味調べ等の予習課題や、授業時の発表、感想文・レポート課題の提出状況などで知識・理解・興味・意欲を見る。

授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
							▼				▼											▼						▼									▼
現代文	随筆・評論									■	■	■											■	■								■	■				
	小説				■	■	■																		■	■											
	詩歌															■	■	■																			
古文	古文		■	■															■	■	■						■			■				■	■		
	古典文法		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■		
漢文	訓読入門							■	■																												
	唐詩																													■							
	史伝・文章																					■	■														

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-2	現代社会	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

① 現代社会の諸問題に対する関心を高め、自らがどのように行動すべきか、考える力を養う。
② 国家と民主政治、憲法と国民生活、基本的人権、政治のしくみ、国際社会の動向など政治分野を中心に学びます。

学習目標

人間の尊重と科学的な探求の精神にもとづいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深め、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方・生き方について考える力の基礎を養う。

学習方法

① 教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事を新聞記事などを用いて紹介します。
② 夏休みの宿題として新聞記事の切り抜き(3日分)を課します。
③ テーマを決めてグループ学習や討論を行うことがあります。
④ 3年次に履修する「政治・経済」と重複する単元があり、経済分野については3年次に学習します。

評価方法

評価は、定期考査を7割～8割程度、課題提出・グループ活動における発言や貢献度・授業態度（興味・関心、意欲、知識、授業姿勢）を2割～3割程度の割合で総合的に評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
現代社会	民主政治	／	■	■	■								／	／	／													／	／							／	／
	日本国憲法の基本原理	／				■	■	■					／	／	／													／	／							／	／
	基本的人権の保障	／							■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	平和主義と安全保障	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	日本の政治機構	／											／	／	／							■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	地方自治	／											／	／	／													／	／	■	■					／	／
	現代政治の特質と課題	／											／	／	／													／	／			■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-3	数学Ⅰ・A	1	S	3+3	必修

何を学ぶか

・数学Ⅰは、数と式、2次関数、図形と計量、データ分析を学びます。
・数学Aは、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質を学びます。
・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得や問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を養います。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅰ	数と式	／	■	■									／	／	／													／	／							／	／
	2次関数	／							■	■	■	■	／	／	／	■	■	■										／	／							／	／
	図形と計量	／											／	／	／							■	■	■	■			／	／							／	／
	データの分析	／											／	／	／													／	／			■	■	■	■	／	／
数学A	場合の数と確率	／			■	■	■	■					／	／	／													／	／							／	／
	図形の性質	／											／	／	／				■	■	■							／	／							／	／
	整数の性質	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■					／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-4	数学Ⅰ・A	1	A	3+3	必修

何を学ぶか

・数学Ⅰは、数と式、2次関数、図形と計量、データ分析を学びます。
・数学Aは、場合の数と確率、整数の性質、図形の性質を学びます。
・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得や問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を養います。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。
・問題集の類題および副教材の例題を解くと、さらに理解が深まり、応用力がつきます。
・毎日続けることが大切です。
・進学に向けた取り組み（補習・合宿・模試等）に積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅰ	数と式	／	■	■									／	／	／													／	／							／	／
	2次関数	／							■	■	■	■	／	／	／	■	■	■										／	／							／	／
	図形と計量	／											／	／	／							■	■	■	■			／	／							／	／
	データの分析	／											／	／	／													／	／			■	■	■	■	／	／
数学A	場合の数と確率	／			■	■	■	■					／	／	／													／	／							／	／
	図形の性質	／											／	／	／				■	■	■							／	／							／	／
	整数の性質	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■					／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-5	数学Ⅰ	1	P	3	必修

何を学ぶか

・数学Ⅰは、数と式、2次関数、図形と計量、データ分析を学びます。
・高等学校数学の基礎的な定理や公式を証明し、それらの演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得や問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を養います。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
・評価の割合
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅰ	数と式	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／													／	／							／	／
	2次関数	／									■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■				／	／							／	／
	図形と計量	／											／	／	／												■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	データの分析	／											／	／	／										■	■		／	／							／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-6	生物基礎	1	S・A・P	3	必修

何を学ぶか

・第一に、生物の特徴、細胞・代謝について学習します。
・第二に、DNAの構造、遺伝情報の発現・分配について学習します。
・第三に、生物の体内環境を維持するしくみ（恒常性、免疫など）を学習します。
・第四に、さまざまな植生や気候とバイオームについて学習します。
・最後に、生物とそれを取り巻く環境の総体である生態系を学習します。

学習目標

・生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、科学的にとらえる力を養います。
・授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深めます。
・身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高めます。
・さらに生物や生命現象と人間の関わりについての理解を深めます。

学習方法

・授業前に必ず教科書に目を通しましょう。その際、専門用語や分からない語句を調べておきましょう。
・授業中は先生の説明を考えながら聞き、分からない所はその時間内に解決しましょう。
・家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力しましょう。
・実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を養いましょう。
・また、実験レポート等、提出物は期限を厳守し、丁寧に作成しましょう。

評価方法

・年間5回の定期考査を実施する。小テストを実施することもある。
・年間5回程度の実験を実施し、レポートを作成する。
・考査点と平常点（1割程度）で評価する。
*平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等より、知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

5月　7月　10月　12月　3月

○は定期考査実施予定

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生物基礎	生物の特徴	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／							／	／
	遺伝子のはたらき	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	体内環境の維持	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／							／	／
	多様性と生態系	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-7	体育	1	S・A	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
・各学期毎に選択種目を2種目を行う。各種目とも基本的な体力や技能の習得を目指す。
・また、剣道・ダンス・陸上の選択は1年2学期、2年1・2学期に行う。ただし2年次での変更は認められない。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルールなど課題レポート等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	男女	集団行動・囚ポーツテスト	／	■	■									／	／	／													／	／							／	／
		剣　道	／			■	■	■	■	■	■	■		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／							／	／
		体つくり運動	／			■	■	■	■	■	■	■		／	／	／													／	／							／	／
		体育理論	／										■	／	／	／	■												／	／							／	／
		サッカー	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		バレーボール	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		卓球	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		テニス	／			●	●	●	●	●	●	●		／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／	●	●	●	●	●	●	／	／
		ダンス	／											／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	／	／							／	／
		陸上競技	／											／	／	／		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

■は必修種目　　●は選択して実施する種目（球技はア～イから2つ以上を選択）
＊3学期の陸上競技は長距離走とし、週2時間行う

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-8	体育	1	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
・各学期とも剣道を1時間行い、2時間は別の2種目を行う。各種目とも基本的な体力や技能の習得を目指す。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10 %）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度を課題レポート等で判断する。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	集団行動・スポーツテスト	／	■	■									／	／	／													／	／							／	／
	剣　道	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	体ほぐし・体育理論	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	ウェイトトレーニング	／			■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	陸上競技	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	男：バスケットボール	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	女：バスケットボール	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	長距離走	／											／	／	／													／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-9	保健	1	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

・現代社会においては国民すべてにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となってきている。「保健」は、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて心身の健康の保持増進を図るために実践する力を養う。

学習目標

・人間の一生のなかで、高校生の時期は体や心の発達という点から大変重要な意味を持っている。保健の授業では、個人としてだけでなく、社会の一員として、しかも地球規模で健康の問題を考え、健康的な生活習慣を身につけることを目指す。
・生活環境を守るための知識と能力を高め、生涯を通じた健康づくりの基礎の確立を目指す。
・生活行動と健康との関わりや環境問題について自ら調査・研究し学習することにより、今後の生活において、健康の保持増進に役立てられるようにする。

学習方法

■授業に集中し、単元の内容を理解するとともに、健康と安全に留意した日常生活が送れる態度を身につける。
・「3分間スピーチ」については、各自に与えられたテーマの課題学習に取り組む。
・夏季休業中に、各自のテーマの分野から自分が興味関心のある事柄について深く研究を行い、レポートを作成する。
・2学期授業で、3分間でテーマについて発表ができるように内容をまとめ、重要な項目については資料を作成する。
・毎時間の発表は個人ノートに内容をまとめる。また、心肺蘇生法実習を授業時に行う。

評価方法

・1学期、学年末については定期考査（90%）、平常点（10%）とし、総合的に判断する。
・2学期は課題学習レポート・発表内容・資料・個人ノートを中心に知識・理解・興味・関心・意欲 等を総合的に判断する。
・定期考査については、1学期末と学年末に実施する。

授業予定

▼ ▼

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
保健	健康の考え方	／	■	■	■	■							／	／	／													／	／							／	／
	健康の保持増進と病気の予防	／					■	■	■	■	■		／	／	／													／	／							／	／
	3分間スピーチ	／										■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／							／	／
	感染症・性感染症	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■					／	／
	精神の健康	／											／	／	／													／	／			■	■			／	／
	応急手当・心肺蘇生	／											／	／	／													／	／					■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-10	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	1	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。

評価方法

・種目ごとに、①運動技能（40%）、②関心・意欲・態度（40%）、③思考・判断（10%）、④知識・理解（10%）の割合で総合的に評価する。
・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は各種目ルール、技術理論等の理解度である。欠席等をなくして意欲的な授業への参加を求める。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅠⅡⅢ	剣道（男・女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	陸上競技（男・女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-11	音楽Ⅰ	1	S・A・P	2	選択必修

何を学ぶか

・歌唱（独唱、斉唱、合唱）、器楽（ギター）、楽典、鑑賞

学習目標

・音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための基礎を学ぶ。

学習方法

・歌唱は教科書やそれ以外にも幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、合唱をする。
・器楽はギターの基礎的な奏法を学び、鍵盤楽器や打楽器等を用いて合奏をする。
・鑑賞は映像や音源を通して、芸術を幅広く理解し音楽のよさや美しさを味わう。

評価方法

・表現（歌唱・器楽）は「音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている（思考・判断、表現 ）」「創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている（知識・技能）」の観点で評価する。<授業中の演奏、実技テスト、提出物、筆記テスト>
・鑑賞は「音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする（主体的に学習に取り組む態度）」「芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている（鑑賞の能力）」の観点で評価する。<授業中の様子、提出物、筆記テスト>

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
音楽Ⅰ	歌唱	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	器楽（ギター）	／		■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	楽典	／	■	■		■	■					■	／	／	／			■				■		■					／	／			■	■			／	／
	鑑賞	／						■	■				／	／	／				■		■		■						／	／	■	■					／	／
	実技テスト	／								■	■		／	／	／										■	■		／	／					■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-12	美術Ⅰ	1	S・A・P	2	選択必修

何を学ぶか

・表現基礎 〈デッサン・ドローイング〉
・発想を構成する力 〈アイデアスケッチ・エスキス・資料収集〉
・表現技法〈絵画・デザイン・彫刻の技法を学び、表現力を深める〉
・鑑賞〈様々な作品や伝統文化に接することで、美的なものに親しむ心と眼を養う〉

学習目標

・素直な気持ちで、何を表現したいのか明確にする。〈独創性(オリジナリティー)を追求〉
・豊かで自由な表現力を養う。〈様々な表現技法を学び、新しいものに挑戦し、感性を豊かにする〉
・真摯に作品に取り組み、できる限り時間をかけて丁寧に仕上げる。〈表現力を深める〉
・作品の表現と鑑賞を通して、美術への愛好心を養い、伝統文化への理解を深める。

学習方法

・絵画表現基礎・リアルな表現 〈鉛筆の細密デッサン・作品の下絵や原画をドローイング〉
・発想したものを作品の原画として構成する〈イメージを明確に➡資料収集➡アイデアスケッチ・エスキス〉
・デザインの基礎〈色彩とアクリルガッシュの使い方「フォトイラストレーション」
・彫塑〈彫刻刀・工具の使用方法・浮き彫りの基本〉木彫「レリーフの制作」
・あらゆる機会を通して様々な作品を鑑賞する。〈映像資料の活用〉

評価方法

・すべての作品を完成させて、提出することが原則。
【関心・意欲・態度】主体的に表現や鑑賞に取り組めているか。
【芸術的な感受や表現の工夫】自ら主題を見つけ、感性を働かせ、多様な表現を工夫しているか。
【創造的な表現の技能】基本技法を身につけ、主題に応じた表現で、丁寧に仕上げられているか。
【鑑賞の能力】素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたり、多様な文化への理解を深められたか。
・出欠遅刻過多や授業態度も点数化はしないが、評価をする上で考慮する。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
美術Ⅰ	絵画表現基礎	／	■	■	■	■	■						／	／	／	■	■									■	■	／	／							／	／
	デザイン	／						■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／							／	／
	彫刻	／											／	／	／								■	■	■			／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	鑑賞	／	■					■					／	／	／	■							■					／	／							／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-13	書道Ⅰ	1	S・A・P	2	選択必修

何を学ぶか

・漢字（楷書・行書）・仮名・漢字仮名交じりの書と裏打ちの方法を学びます。

学習目標

・古典の鑑賞・臨書を通して基本的な技法を習得し、美の多様性を理解します。

学習方法

・古典といわれる名品を繰り返し習い、書の美の原理や基礎の技法を身につけます。
・半紙練習にて基本書法を学んだ後、漢字は画仙紙に、仮名は料紙に清書し、多様な作品形式に対応する力をつけます。
・漢字仮名交じりの書の制作では、これまでに学習した技法や感覚を生かして表現の工夫をします。

評価方法

・主体的に表現や鑑賞の創作活動に取り組めているか（関心・意欲・態度）
・書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか（書表現の構想と工夫）
・基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけているか（創造的な書表現の技能）
・書の伝統と文化を理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっているか（鑑賞の能力）
以上の内容について、完成した作品の達成度とともに評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
書道Ⅰ	楷書	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／													／	／							／	／
	行書	／									■		／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■					／	／							／	／
	硬筆	／										■	／	／	／												■	／	／							／	／
	裏打ち	／											／	／	／											■		／	／							／	／
	仮名	／											／	／	／									■	■			／	／	■	■					／	／
	漢字仮名交じり	／											／	／	／													／	／			■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-14	コミュニケーション英語Ⅰ	1	S・P	4	必修

何を学ぶか

・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるとともに、文法事項をもとに高校で学ぶ英語の基礎づくりを目指し、「読む・書く・聞く・話す・やりとり、発表」という5領域での言語活動を総合的に学習する。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのA2(～B1)レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 音読や黙読を通して英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ キーセンテンスをペアワーク等の言語活動を使って覚え、それを利用した自由英作文等で Speaking や Writing の力を伸ばす。
④ 週1回の単語テストで、単語の定着を図る。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約20%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約60%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約20%）
　小テスト、パフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの課題)　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅰ	Lesson1～2	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／							／	／
	Lesson3～4	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	Lesson5～6	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	Lesson7～8	／											／	／	／							■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	Lesson9～10	／											／	／	／													／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-15	コミュニケーション英語Ⅰ	1	A	4	必修

何を学ぶか

・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるとともに、文法事項をもとに高校で学ぶ英語の基礎づくりを目指し、「読む・書く・聞く・話す・やりとり、発表」という5領域での言語活動を総合的に学習する。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 音読や黙読を通して英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ キーセンテンスをペアワーク等の言語活動を使って覚え、それを利用した自由英作文等で Speaking や Writing の力を伸ばす。
④ 週1回の単語テストで、単語の定着を図る。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約20%）
　出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約60%）
　定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約20%）
　小テスト、パフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの課題)　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
コミュニケーション英語Ⅰ	Lesson1～2	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／							／	／
	Lesson3～4	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	Lesson5～6	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■							／	／							／	／
	Lesson7～8	／											／	／	／							■	■	■	■	■	■	／	／							／	／
	Lesson9～10	／											／	／	／													／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-16	英語表現 Ⅰ	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

・中学校で既習の文法事項について復習し、初歩の文法を習得する。それをもとに高校レベルの文法事項について学習し、より深い知識を習得する。
・数多くの文章を暗唱し覚えることによって、会話の基本をしっかりと固め、話す、書く、伝えるといった活動につなげる。

学習目標

・高校レベルの基本的な文法をしっかり身につけ、自分の考えや身の回りのことを英語で話したり、書いたり、伝えたりして表現能力を養う。
・このような活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。
・卒業時にCEFRのB1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

・高校レベルの文法事項を含んだ基本例文を理解し、ペアワーク等の言語活動を利用し暗記する。
・それをもとに、積極的に簡単な文章を書いたり、話したりして、自分の伝えたいことを表現する。

評価方法

●評価の4観点について、以下のように評価する。
・コミュニケーションへの関心・意欲・態度（約15%）
出席状況、授業態度、言語活動への積極性、提出物　など
・外国語表現の能力　・外国語理解の能力（約70%）
定期考査、課題テスト　など
・言語や文化についての知識・理解（約15%）
小テスト、ライティングの課題　など

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語表現Ⅰ	Lesson 1	／	■										／	／	／													／	／							／	／
	Lesson 2	／		■	■								／	／	／													／	／							／	／
	Lesson 3	／				■	■						／	／	／													／	／							／	／
	Lesson 4	／						■	■				／	／	／													／	／							／	／
	Lesson 5	／								■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	Lesson 6	／											／	／		■	■											／	／							／	／
	Lesson 7	／											／	／	／			■	■	■								／	／							／	／
	Lesson 8	／											／	／	／						■	■						／	／							／	／
	Lesson 9	／											／	／	／								■	■				／	／							／	／
	Lesson 10	／											／	／	／										■	■	■	／	／							／	／
	Lesson 11	／											／	／	／													／	／	■	■					／	／
	Lesson 12	／											／	／	／													／	／			■	■			／	／
	Follow Up 1～5	／											／	／	／													／	／					■	■	／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-17	情報の科学	1	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

・コンピュータやインターネットなどの仕組みを理解する。タイピングのスキルを身につける。
・どのように現実の問題を解決するかという解決方法を習得し、情報社会を安全に生きていくために必要な科学的な知識を身につける。また、PDCAサイクルにあった自分なりの学習方法を見つける。
既存のソフトを使って情報活用能力を身につける。
・コミュニケーション能力を伸ばす。SNSなどの賢い利用方法や被害者や加害者にならないための学習をおこなう。

学習目標

・情報社会の変化だけでなく背景やその本質を知る。コミュニケーション能力を伸ばすことによって、自らの情報技術の仕組みを理解し、どのように社会に生かされているか体系的に考察する。以上の点を踏まえて、情報技術を活用しながらさまざまな問題に対して情報科学の目で問題解決をする。
・ワード・エクセル・パワーポイントなど社会人としての必要最小限の操作技術を習得する。

学習方法

・コンピュータの操作には、タイピングが必要不可欠である。そのためにタイピングをマスターする。
・実習中心の授業のため欠席等でも課題は学校で行う。
・能力差については、本人の努力により克服できる範囲で解消できる。
・年間通じてタイピングの練習を自主的に行う。
・プレゼンテーションを行う機会を与え、その時に応じてテーマを設定し、自分で考え発表する。
・IT関連の情報は日々進化している。そのためメディアから情報を入手する必要がある。必要な情報を収集するためにはどうすればよいかの学習を行う。

評価方法

・定期考査・課題・発表・実技テストを中心に知識・意欲・理解および出席・服装など総合的に判断する。
・7･12月に考査実施予定。1学期中間考査は実技テストを実施する。実習科目なので、出席することが基本である。欠席時は必ず欠席届を提出すること。評価の割合は、定期考査（70%）実技課題（20%）平常点（10%）とする。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
情報の科学	情報モラル	／	■	■									／	／	／				■									／	／							／	／
	実技技能	／	■	■	■	■			■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■			／	／
	コンピュータの仕組み	／					■	■	■				／	／	／													／	／							／	／
	プログラミング	／											／	／	／				■	■								／	／							／	／
	プレゼンテーション	／											／	／	／													／	／	■	■	■	■	■		／	／

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
1-18	総合的な探究の時間	1	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

・情報収集作業を通して情報を収集するためのツールを知り、効果的な使用方法を学ぶ。
・身近な中から課題を発見しその解決のために必要な計画の立て方を学ぶ。
・教科で得た知識と他者から得た多様な考え方を掛け合わせて課題の解決に必要な手法を見出す方法を学ぶ。
・様々な人々との話し合いを通じて、合意形成で必要なルールや他人を思いやること等について学ぶ。

学習目標

・目標を立てて地道に取り組み、生涯にわたり学び続けることができるようになることを目指す。
・柔軟な考えを持ち、進んで他人の考えを受け入れることができるようになることを目指す。
・失敗を恐れずチャレンジする力を養成する。

学習方法

・1学期はテキストを使用し、簡単なテーマを通して探究活動に必要な基礎的な知識・技能を身につける。
・2学期は、地域社会に関することから課題を見つけて、改善や解決につながる探究活動を行う。
・3学期は2学期の学習をうけて、久御山の姿を知る活動または進路探究を行う。

評価方法

毎時間の活動内容（課題提出、グループ活動における貢献度）や成果発表、リフレクションシート、ポートフォリオ等により総合的に評価します。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な探究の時間	探究の基礎トレーニング①	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／							／	／
	探究の基礎トレーニング②	／						■	■	■	■	■	／	／	／													／	／							／	／
	地域連携	／											／	／	／	■	■	■	■	■	■	■						／	／							／	／
		／											／	／	／								■	■	■	■	■	／	／							／	／
	地域を知るor進路探究	／											／	／	／													／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

※各自（またはグループごとに）テーマを設定し、研究発表を行う。